

2025 年度 一宮市病院事業経営強化プラン評価委員会 議事概要	
日時	2025 年 10 月 24 日（金曜日）午後 3 時から 4 時まで
場所	一宮市立市民病院 11 階会議室
出席者	評価委員：櫻井委員長、小川副委員長、相宮委員、前田委員、竹内委員、滝野委員、田中委員、坂野委員 病院側：松浦病院事業管理者、志水市民病院院長、中村木曽川市民病院院長、木野病院事業部長、後藤病院事業部次長兼経営企画課長 （市民病院）長村管理課長、佐々医事課長、五藤地域連携室副室長 （木曽川市民病院）木村事務局長、川岸業務課長
議事内容	<p>一宮市病院事業強化プラン評価委員会では、両病院の経営強化プランに関する重点項目や目標の妥当性、情報発信のあり方などについて議論が行われた。</p> <p>1. 委員からの主な意見・質疑</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・重点項目の中で、どの項目を特に重視しているかについて質問があった。 [市民病院回答] プランのすべてを重要としつつ、特にがん・脳卒中・心血管疾患など「幅広い高度医療」の質の向上を重視している。 経営指標では医療の質を反映する「入院診療単価」を最重要視している。</li><li>[木曽川市民病院回答] 最も重視するのは「市民病院との連携強化」で、これが入院患者数や病床利用率の改善に直結すると考える。 DPC 制度を採用しているため、「入院患者数」と「病床利用率」を最重要の経営指標と位置づけている。</li><li>・全国的に公立病院の大半が赤字であり、一宮市の状況も特別なものではないとの意見があった。</li><li>・不採算であるものの必要な政策医療の維持については理解が示されたが、赤字縮小に関する要望があった。</li><li>・RPA（パソコン上の定型作業をソフトウェアロボットが自動で行う技術）導入など他自治体の先進事例の調査・活用に関する提案があった。</li><li>・2024 年度実績が目標を大きく下回った中で、2027 年度黒字化は現実的に可能かについて質問があった。 [市民病院回答] 計画策定時の想定より患者回復が遅れており、目標修正も検討する必要がある。</li><li>・医療機関・市民への情報発信が十分でないとの指摘があり、積極的な広報推進に関し要望があった。 病床数削減など全国の動向が計画に与える影響について質問があった。 [市民病院回答] 広報の重要性を十分に認識しており、今後も継続して情報発信していく。 病床数についても、社会情勢の変化を踏まえて見直しが必要な段階にあると認識している。</li></ul>

	<p>2. 評価委員会の総括</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・初年度は多くの数値目標が未達成であった点について指摘があった。</li><li>・今後、状況の大きな変化があれば次回評価で反映していく方針が示された。</li><li>・両病院には、尾張西部医療圏の中核として連携し、地域へ安全で質の高い医療提供の継続を期待する意見が示された。</li></ul>
--	--